

高知でルーツ実感

「高知のルーツを実感でき、うれしい」。母方の高祖父は土佐藩重臣、佐々木高行。一人芝居「月夜のファウスト」公演で来高したのに合わせ、南国市の県立歴史民俗資料館で先祖の書状と対面した。

演出家・俳優

串田 ^{かずよし}和美さん(79)

ぴーぷる



在は長野県松本市のまつもと市民芸術館総監督。第1回の緊急事態宣言明けの昨夏、地元の公園で上演した「月夜の」が

話題を呼び、各地で巡演している。「高知公演は日大の教え子が高知にいて企画してくれた。不思議な縁です」。演出した舞台劇「上海バンスキング」以来38年ぶりの高知公演。「観客

が当時のパンフレットを手に見に来てくれたのに、は感激しました」

公演後、数日間滞在し、同館を訪問。明治政府の高官時代に大久保利通や伊藤博文に言及した佐々木の手紙を閲覧し「後世に手紙が残り、子孫に見られるなんてね」と笑った。

松本市で新たな演劇祭を開いたばかり。「古来、祭りは疫病流行後、心の復興を祈願して始まった。芝居は観客がいてこそです」

(村瀬佐保)